

76 期リレーエッセイ



出会いと学びと今後への期待

会員 梅村 征司

1 自己紹介

はじめまして。私は、宮城県出身で、社会人13年目、法曹1年目の35歳です。大学卒業以来、日系の金融機関にて人事制度の構築や営業企画に携わっています。趣味はゴルフでしたが、7月に第二子が生まれ二児の父となり、休日は2歳の息子と水族館や動物園に通っています。

2 司法試験まで

法学部だったこともあり、当時から同僚の仲間達とゼミを組んで学び、司法試験受験を考えていましたが、結局は法科大学院へは進学せず、就職しました。幼い頃に食品メーカー勤務の父とスーパーに行った際に置き場所によって売れ行きが変わるなどと話していたこと、学生時代にフリーペーパー創刊や文化祭で商品企画をしていた経験から「モノが売れる仕組み」に興味がありビジネスに携わる道を選びました。

就職をして、上司や同僚に恵まれ、人に依頼する仕事は最優先にする、経済動向を理解する、課題を科学する、構造を理解し効率を考えるなど社会人の基礎となる多くのことを学びました。

仕事にも余裕が出てきた頃、新型コロナウイルスが流行し、それまで忙しかった日々が急に時間ができました。時間を有効に使いたいと思い、司法試験受験を決めました。夜間のロースクールに通い、そこでも素晴らしい仲間に出会い、オンラインでしたが、夜な夜な自主ゼミを開催する等して楽しく法律を学びました。中央省庁・コンサル・メーカー出身、子育てしながら等多様なバックグラウンドを持つ人生の先輩方から勉強以外にも学びの多い充実した日々でした。

3 司法修習

司法修習は、家族もいるため東京修習でしたが、ここでも指導教官、班やクラスのメンバーに恵まれ、忙しいながらも楽しい日々を過ごしました。修習生同士での旅行や飲み会に楽しそうに行く姿を見た妻からは、若者に交ぜてもらって無理しないようにとも苦言を呈されましたが、良く遊びました。仕事を中断してきており、会社に復帰するつもりだったため、法曹の仕事を経験できる貴重な機会だと思い、一生懸命学びました。1つの物事を正反対の立場から考えることで新たな発見があること、最後に揉める場面を想定して備えること、瞬発力を磨くこと、規制は変わるものでありダイナミックに考えること、司法試験合格は運転免許のようなものだからその後が重要であることなど、多くの学びが糧になりました。

4 今後について

現在は会社に戻って働いています。しかし、いわゆるインハウス業務ではなく、以前と同様総合職としての仕事をしています。私が弁護士になったのは、ビジネス領域で新しいチャレンジをするため、規制等により挑戦を諦めるのではなく、どうやったらできるのかを考えることができるビジネスパーソンになりたいと思ったからです。まだスタートラインに立ったばかりですが、東京弁護士会に入ったことで労働法制特別委員会やクラス別研修等に参加させていただき、新しい出会いがたくさんあります。ジェネラリストとスペシャリストの両立の難しさを痛感している日々ですが、出会いを大切に、学び続け、より良い社会人・ビジネスパーソン・弁護士になれるように奮励努力していきたいと思っています。皆様何卒宜しくお願いいたします。